

補助金・交付金チェックシート (No.1)

補助金名 (交付金名)	函館豆記者交歓会運営事業補助金	開始 年 度	昭和53年度
団 体 名	函館豆記者交歓会		
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	函館市補助金交付規則		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	青少年の健全育成の一環として、函館の豆記者交歓会（小学校高学年）を沖縄をはじめ根室、釧路（北方領土）、東京などへ派遣し、取材活動および沖縄の豆記者交歓会と親善交歓を行う。
目 的	(目 的) 青少年の健全育成のため
・ 効 果	(効 果) 子どもたちを日本各地に派遣、生活産業・文化・教育施設等を視察取材し、現地の子どもたちと交流させる事業は、次代を担う青少年の豊かな情操と自主性・協調性の涵養に多大な効果を上げている。

○補助事業の収支状況

(単位：千円)

	年 度	助 成 金		事業収入	会 費			計
		市	その他					
収 入	26	300	250	196	3,096			3,842
	27	300	250	177	2,577			3,304
	28	300	250	157	2,961			3,668
	29	300	250	150	2,905			3,605
	30	300	0	370	2,609			3,279
支 出	年 度	事務費	事業費					計
	26	101	3,714					3,815
	27	99	3,205					3,304
	28	100	3,568					3,668
	29	118	3,487					3,605
	30	62	3,217					3,279

補助金・交付金チェックシート (No.2)

補助金名 (交付金名)	函館豆記者交歓会運営事業補助金
----------------	-----------------

○基本的視点の再チェック

基本的視点		適	不適	説明
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献する事業 ②市民ニーズが高い事業	☒ ☒ ☒	☐ ☐ ☐	市内の豆記者を，北方領土取材をはじめ，沖縄や東京に派遣し，各地域の豆記者との交歓や取材を通じ，人間性の向上を図るとともに，青少年の健全育成に寄与するものである。
2	必要性（補助しなければならない事業であるか）	☒	☐	子どもたちに各地を視察する機会を与えることは，社会的視野を拡げるために有意義な事業であり，補助金の削減等は，青少年の貴重な体験の場を奪うことになる。
3	自主性（自主自立に向け努力しているか）	☒	☐	青少年に貴重な体験学習の場を提供するものであり，補助金の継続が無ければ今後の活動は厳しく，青少年の貴重な体験の場を奪うことになる。
4	有効性（他の手法ではなく補助することが，施策目的実現に最適か）	☒	☐	同上

※適・不適であっても，説明欄は必ず記載してください。

○財政的視点のチェック

財政的視点		不適	不適の場合の理由と今後の対応について
1	積算内訳は，前年踏襲となっていないか	☐	
2	補助金等の使途は適切である	☐	
3	積算基準は定められている	☒	定額の補助金額で係属しているため，今後，補助対象経費の見直しを図り，積算基準額を明確にする。
4	補助割合は，補助対象経費の1／2以内である	☐	
5	前年度繰越金は生じていないか	☐	
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保しているか)	☐	
7	経常経費の節減に努めているか	☐	

※不適の場合は，説明欄に必ず記載してください。

補助金・交付金チェックシート(No.3)

補助金名 (交付金名)	函館豆記者交歓会運営事業補助金
----------------	-----------------

○補助効果の検証

(効果測定方法, 具体的な数値等)

子どもたちを日本各地に派遣し, 文化・教育施設等を視察取材し, 現地の子どもたちと交流させる事業であり, 次代を担う青少年の豊かな情操と自主性・協調性の涵養に多大な効果を上げている。

(達成状況)

- ・東京・北方領土派遣 7月～8月(東京取材班13名, 北方領土取材班10名)
- ・沖縄派遣 12月(平成30年度 取材班10名)
- ・函館豆記者研修 6月(北海道新聞社とふるる函館で研修)
- ・記録文集「羽ばたき」発刊

※継続事業は, 直近の実績 新規事業は, 効果のみ記載してください。

(評価)

- 十分効果をあげている ☒
- 一定の効果をあげている ☐
- 効果が疑問である ☐
- その他 ☐

(理由)

全国各地域への派遣により子どもたちの自立心を向上させるとともに, 見聞を広めるのに役だった。また, 他地域の豆記者との交流といった貴重な機会の提供がなされている。

○今後の方向性

☐ 現行のまま補助を継続☒ 見直したうえで補助を継続☐ 廃止☐ その他

(見直しの内容)

補助金額を定額とせず, 上限を設けた上で, 児童の延べ参加者数によって補助金額を設定する。

(見直しの時期)

平成30年度

(廃止の理由)

(廃止の時期)

(その他の内容)

○終期の設定

終期設定

令和3年度

☐

終期到来により廃止

☒

終期到来時に再検討

次回チェック年度(予定)

令和3年度